

August 2, 2019

【前日の為替概況】ドル円、トランプ大統領の対中制裁関税第4弾表明で107.26円まで下落

1日のニューヨーク外国為替市場でドル円は大幅反落。終値は107.34円と前営業日NY終値(108.78円)と比べて1円44銭程度のドル安水準だった。7月米ISM製造業景気指数が51.2と予想の52.0を下回り、6月米建設支出が前月比1.3%減と予想の前月比0.3%増に反して減少すると円買い・ドル売りが先行した。トランプ米大統領がツイッターで「9月1日から3000億ドル分の中国製品に10%の追加関税を課す」と表明すると、米10年物国債利回りが一時1.8746%前後と2016年11月上旬以来の低水準まで急低下。日米の金利差縮小を意識した円買い・ドル売りが優勢となった。一時は310ドル超上昇したダウ平均が下げに転じ310ドル超下落したことも円買い・ドル売りを促し、一時7月19日以来の安値となる107.26円まで値を下げた。

トランプ米大統領は「中国の習近平国家主席は行動が遅い」「中国は自国通貨を下落誘導している」との見解も示している。

ユーロドルは小反発。終値は1.1085ドルと前営業日NY終値(1.1076ドル)と比べて0.0009ドル程度のユーロ高水準だった。20時過ぎに一時1.1027ドルと2017年5月16日以来の安値を付けたものの、1.1025ドル付近に観測される買いオーダーに下値を支えられると買い戻しが優勢に。米長期金利が2年9カ月ぶりの低水準を付けたことでドル売りが強まると、一時1.1096ドルと日通し高値を付けた。

ユーロ円は3日続落。終値は119.00円と前日NY終値(120.47円)と比べて1円47銭程度のユーロ安水準。ドル円の下落や米国株の失速に伴う円買い・ユーロ売りが優勢となり、一時118.92円と1月3日のフラッシュクラッシュ以来の安値を付けた。市場では「コンピューターで売買の好機を判断するモデル系ファンドの売りが観測された」との指摘もあった。

メキシコペソ円は軟調。米国株安に伴うリスク回避的な円買い・ペソ売りが入ったほか、WTI原油先物価格の急落を背景に産油国通貨とされるメキシコの通貨ペソに売りが集まった。3時過ぎに一時5.57円と6月26日以来の安値を更新した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米7月雇用統計のネガティブサプライズ警戒で軟調推移か

本日の東京市場のドル円は、トランプ米大統領が対中制裁関税第4弾(3000億ドル・10%)の9月1日からの発動を表明し、9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での追加利下げに繋がる米7月の雇用統計のネガティブサプライズ警戒で続落が予想される。

トランプ米大統領は、7月30-31日の第12回米中通商協議が不調に終わったことで、9月の第13回米中通商協議を待たずに、9月1日から対中制裁関税第4弾(3000億ドル・10%)の発動を表明している。そして、米中通商協議が難航した場合、25%へ引き上げると警告している。本日は、8月1-2日に開催されている日米通商協議でのトランプ米政権からの米国産農産物の輸出拡大、日本の自動車輸入の抑制などのヘッドラインに要警戒となる。

パウエルFRB議長は、0.25%の予防的利下げを「景気下振れリスクに対する保険」として、長期緩和サイクルの開始を否定していた。しかし、トランプ米政権の対中制裁関税第4弾を受けて米国の景気減速への「不確実性」が増大することで、グリーンズパン第13代FRB議長の下で1995年と1998年に実施された「予防的利下げ」のように、最低3回の利下げ(3x0.25%=▲0.75%)の可能性が高まっている。

本日発表される米7月雇用統計の予想は、非農業部門雇用者数が前月比+16.4万人(6月+22.4万人)、失業率が3.7%(6月3.7%)、平均時給が前年比+3.1%(6月+3.1%)と見込まれている。

最大予想+23.6万人程度のポジティブサプライズならば、年内の利下げ観測は後退してドル買い要因、最少予想+7.4万人程度ネガティブサプライズならば、追加利下げ観測が台頭して、ドル売り要因となる。また、6月分の下修正の可能性にも要警戒となる。

トランプ米大統領は、3%成長を公約としていることで、2020年秋の米大統領選挙に向けて金融緩和圧力を強めている。

米4-6月期国内総生産(GDP)は前期比年率+2.1%だったが、今後3.0%以上に景気拡大した場合、パウエルFRB議長の予防的利下げのおかげとなり、2.0%以下に減速して行った場合は、パウエルFRB議長の先見性が認められることになり、パウエルFRB議長は自分自身にも「保険」をかけたことになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ☆ 6月19-20日分の日銀金融政策決定会合議事要旨
- 08:50 ◇ 7月マネタリーベース

<海外>

- 10:30 ◎ 4-6月期豪卸売物価指数 (PPI)
- 10:30 ◎ 6月豪小売売上高 (予想: 前月比 0.3%)
- 15:30 ◎ 7月スイス消費者物価指数 (CPI、予想: 前月比▲0.3%)
- 16:30 ◇ 7月スイス SVME 購買部協会景気指数 (予想: 46.5)
- 17:00 ◇ 7月ノルウェー失業率 (予想: 2.3%)
- 17:30 ◎ 7月英建設業購買担当者景気指数 (PMI、予想: 46.0)
- 18:00 ◎ 6月ユーロ圏卸売物価指数 (PPI、予想: 前月比▲0.3%/前年比 0.8%)
- 18:00 ◎ 6月ユーロ圏小売売上高 (予想: 前月比 0.2%/前年比 1.3%)
- 21:30 ◇ 6月カナダ貿易収支 (予想: 3億カナダドルの赤字)
- 21:30 ◎ 6月米貿易収支 (予想: 546億ドルの赤字)
- 21:30 ☆ 7月米雇用統計 (予想: 非農業部門雇用者数変化 16.4万人/失業率 3.7%/平均時給、前月比 0.2%/前年比 3.1%)
- 23:00 ◎ 6月米製造業新規受注 (予想: 前月比 0.8%)
- 23:00 ◎ 7月米消費者態度指数 (ミシガン大調べ、確報値、予想: 98.5)
- 日米閣僚級貿易協議 (ワシントン、最終日)

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

1日 05:54 トランプ米大統領

「市場がパウエルFRB議長から聞いたかったことはこれが積極的な利下げサイクルの始まりであったということ」
「パウエルFRB議長に失望。ただ、量的引き締め終了は評価」

「9月1日からいくつかの中国製品に10%関税を課す」
「米中通商協議が難航した場合、25%に引き上げる」
「中国の習近平国家主席は行動が遅い」
「中国は自国通貨を下落誘導している」

1日 10:35 両宮日銀副総裁

「強力な金融緩和を粘り強く続け、物価モメンタムを維持することが重要」

「予断を待たずに適切な金融政策運営を行っていく」
「緩和手段は様々な手段を組み合わせ、応用も」

1日 14:12

「将来のリスクは物価目標達成の道筋やメカニズムにどのようなリスクがあるかで判断」

「(追加緩和について)情勢に応じて最適な手段や組み合わせを考えていく」

「金融緩和の手段が尽きている、乏しくなっているということはない」

「リスクへの対応という考え方は予防的・保険的と共通する」

1日 16:27 中国商務省

「米国にももう少し通商協議で貢献することを望んでいる」
「米国が十分な誠意をみせる必要がある」
「なぜ通商協議が決裂したかを話し合った」

1日 20:01 英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨

「0.75%の政策金利の据え置きを9対0で決定。資産買い入れプログラムの規模の維持を9対0で決定した」
「ブレグジットでは、金利はどちらサイドにも動く可能性がある」

「緩やかで限られた利上げが適切だが、世界景気の回復やスムーズなブレグジットの移行が必要」

「5月から通商摩擦が増大している」

1日 20:05 英中銀イングランド銀行(BOE)四半期ごとの物価報告(インフレレポート)

「2019年のGDP見通しは+1.5%から+1.3%に下方修正」
「2020年のGDP見通しを+1.6%から+1.3%に下方修正」
「2021年のGDP見通しは+2.1%から+2.3%に上方修正」
「1年後のインフレ率は1.9%(前回1.72%)」

「2年後のインフレ率は2.23%(前回2.05%)」

「3年後のインフレ率は2.37%(前回2.16%)」

1日 20:35 カーニーBOE総裁

「ブレグジットへの反応はどちらサイドもあり得る」

「合意なき離脱の可能性が増している」

「世界経済は5月よりも進みが遅くなっている」

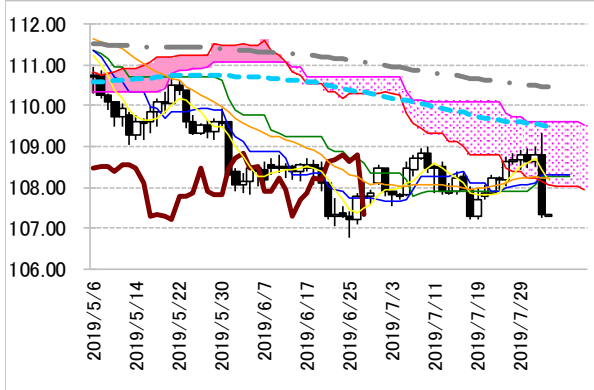
「合意なき離脱になればポンドは下落するだろう」

「政府や企業による合意なき離脱の準備では、経済のファンダメンタルズの調整は出来ないだろう」

「世界的な貿易システムの未来の不確実さと、ブレグジットが英国経済の重荷になっている」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

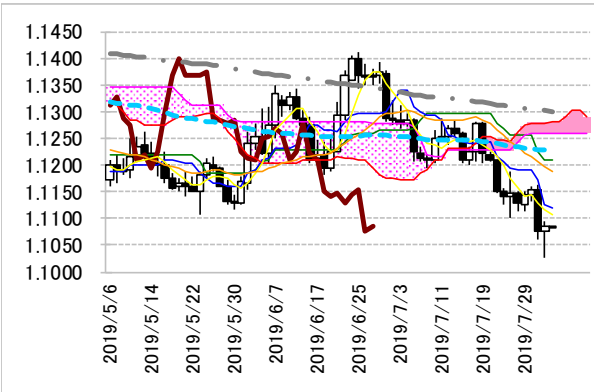


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。昨日は109.32円まで続伸したものの、上ヒゲを残して抱き線で反落しており、下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	109.59(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	108.29(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	107.34
サポート 1	106.78(6/25 安値)

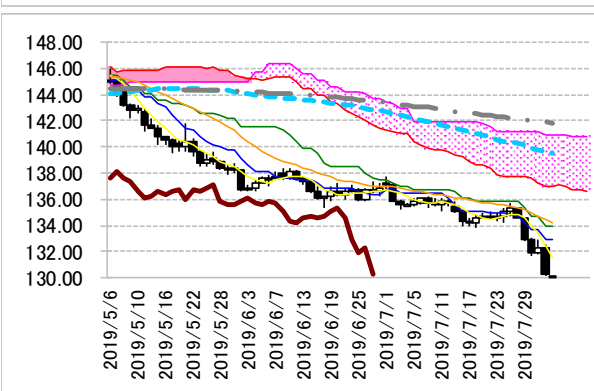


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

下ヒゲ小陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。昨日は1.1027ドルまで続落したものの下ヒゲを残して孕み線で反発したが、7月31日の大陰線の中心部を下回っていることで下落トレンドは継続か。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1119(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1085
サポート 1	1.0975(2017/5/16 安値)

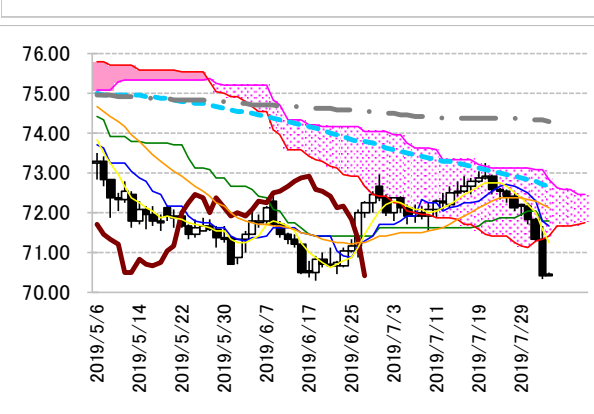


<ポンド円＝転換線を抵抗に売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、転換線を抵抗に売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	132.88(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	130.22
サポート 1	129.02(7/25-30の下落幅のN計算値)



<NZドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。8手連続陰線により、下落トレンド継続か。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	71.63(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	70.39
サポート 1	69.14(1/3 安値)

